

平成29年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
23104	食事療法論 I Diet Theory(Clinical Nutrition) Seminar	鈴木 幸男	専門	2	必修	1年 後期

**科目の概要**

栄養士は食と健康に関する専門職で、臨床の場では正しい栄養管理により疾病の改善に大きく繋がるので、必要な専門知識、建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を総合的に身に付け、活躍しなければいけない。この科目では、糖尿病を始めとする多くの疾患においては、治療成績の向上に向け食事療法の重要性が一層高まってきているので、臨床現場で治療食等に関わる栄養士においても病態の正しい理解と栄養状態の適切な評価を基にした栄養管理能力が求められるようになってきたことから、それぞれの疾患ごとに病因や病態、診断方法と症状、栄養管理計画、モニタリング、評価等具体的な栄養管理法について身に付ける。

学習・教育内容	達成目標
① 各疾患(循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等)の病因や病態、症状と食事療法について知り、説明できるようになることを目標とする。	① 各疾患(循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等)の病因や病態、症状と食事療法の方針、栄養量、制限食品が説明・適用することができる。
② 各疾患の診断方法と検査値について知り、説明できるようになることを目標とする。	② 高血圧を始め各疾患の診断方法と検査項目、検査値(判定基準)が説明・適用することができる。
③ 各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導について知り、説明できるようになることを目標とする。	③ 各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導が説明・適用することができる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	高血圧を始めとする各疾患の食事療法を達成するという目標に向かって、指示が無くとも課題解決に必要な知識について、教科書等を使用して自己学修をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	困難があっても目標を変更せず到達することができる。
考え抜く力	課題発見力	病気の食事療法の進め方については、思い込みや憶測ではなく、事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	病気の食事療法等の検討等、物事を考える時には固定概念に捉われず、いろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	整理した内容を的確な文章で表現できる。さらに、発表の仕方を工夫して説明できる。
	傾聴力	人の意見を確認し、その意見から新たなことに気づき、さらに自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠勤、遅刻、居眠り、私語等講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト:「臨床栄養学概論 病態生理と臨床栄養管理を理解するために」秋山栄一、位田忍等編(化学同人) 価格 2,700円+税

資料として「糖尿病食事療法のための食品交換表第7版」日本糖尿病学会編(文光堂) 価格 9,000円+税

「腎臓病食品交換表第9版」黒川清監修(医歯薬出版) 価格 1,500円+税 も使用します。

**他科目との関連、資格との関連**

関連科目:食事療法実習 I、栄養学、生理学、病理学、解剖学、栄養カウンセリング

資格:栄養士免許

学修上の助言	受講生とのルール
覚えることが多いので、教科書や資料等を活用し、次回講義までに食品衛生及び安全管理の活動状況を理解して備えることと講義後は積極的に復習し、習得を図ってください。	授業中は、講義内容について積極的に質問してください。授業で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーさせてもらってください。 不明な点は文献やインターネット等で調べ、習得の向上に努めてください。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験	60	①	✓	到達目標の①②③に対応して、各疾患(循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等)の病因や病態、症状と食事療法の方針、栄養量、制限食品の概要や語句の理解を試す問題を出題し評価する。 具体的には、高血圧を始め各疾患の診断方法と検査項目、検査値(判定基準)、栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導法の理解を試す問題を出題し、評価する。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
小テスト	20	①	✓	① 小テストは後半期に2回行う。 ② 高血圧、糖尿病、腎臓病の診断方法と検査項目、検査値(判定基準)、高血圧食、糖尿病食、腎臓病食の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導法について、理解できているか確認する。 ③ 穴埋め問題、五択方式等で出題するが、出題範囲は各時点までの授業で学修した内容とする。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
レポート	10	①	✓	① レポートは後半期に1回実施する。 ② 課題については「各疾患の診断方法と検査値(判定基準)、食事療法の内容や栄養管理方法について」等、授業で学習した内容2題で、400字程度で自分の言葉でまとめる能力を評価する。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①		(主体性)各疾患の食事療法の達成に向け、指示が無くとも、自己学修をしていたかで評価する。 (実行力)困難があっても目標を変更せずに到達できたかで評価する。 (課題発見力)各疾患の食事対策については、思い込みや憶測ではなく、事実に基づき情報を整理し、課題を見極めたかどうかで評価する。 (創造力)食事療法の検討等、物事を考える時に固定観念に捉われず、いろいろな方向から考えられたかどうかで評価する。 (発信力)整理した内容を的確な文章で表現し、さらに発表の仕方に工夫があったかどうかで評価する。 (傾聴力)人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べたかどうかで評価する。 (規則性)受講態度(遅刻、欠席、私語、学習意欲欠如等)が見られる場合は1回につき2点の減点をする。
		②		
		③		
		④		
		⑤		
その他				
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベル A(優)の基準	到達レベル B(良)の基準
各疾患(循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等)の病因や病態、症状と食事療法、診断方法と検査値及び各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導について習得ができ、論理的かつ的確に説明ができ、学修態度にも問題がない場合に(優)とする。 (秀)については、各疾患の栄養管理法や食事療法等について完璧に説明ができ、学修態度も確実であった場合とする。	各疾患(循環器・内分泌代謝・腎臓・消化器・血液等)の病因や病態、症状と食事療法、診断方法と検査値及び各疾患の栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導について、習得ができ、論理的かつ十分に説明ができ、学修態度にも特段問題がない場合に(良)とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	オリエンテーション 臨床栄養学の意義、科目の到達目標等を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	臨床栄養や食事療法の意義や目的について説明ができる。	(復習)臨床栄養学の意義をまとめる。 (予習)臨床栄養の意義と各疾患について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
2週 /	栄養法 経口、経腸、経静脈の3栄養法を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	栄養補給ルートについて生体の栄養機能と補給手段が説明できる。	(復習)栄養法の種類と選択についてまとめる。 (予習)臨床検査の異常値について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
3週 /	栄養評価、臨床検査 栄養評価の目的や臨床検査の基礎と異常値を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	栄養評価方法と検査値の名称、異常値が説明できる。	(復習)疾患ごとの臨床検査値の名称と異常値をまとめる。 (予習)胃腸疾患の病因、症状、食費療法について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
4週 /	胃・腸疾患 胃炎、胃がんの疾患の病因と病態と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	胃腸疾患の病因と症状及び食事療法の方針が説明できる。	(復習)胃腸疾患の食事療法をまとめる。 (予習)消化器系疾患の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
5週 /	胃・腸疾患 十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病の食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	胃腸疾患の病因と症状及び食事療法の方針が説明できる。	(復習)消化器系疾患の食事療法をまとめる。 (予習)循環器系疾患の食事について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
6週 /	循環器疾患 高血圧の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	高血圧の病因と症状及び食事療法の方針が説明できる。	(復習)高血圧の食事療法の方針と減塩の意義をまとめる。(予習)心臓疾患の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	90	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
7週 /	循環器疾患 虚血性心疾患や脳循環器疾患の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	動脈硬化、虚血性心疾患等の病因と食事療法の方針が説明できる。	(復習)血圧や動脈硬化と心疾患等の関係をまとめる。 (予習)糖尿病の食事療法について教科書を読み、ポイント整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
8週 /	内分泌・代謝疾患 糖尿病の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・パワーポイント) 質疑応答	糖尿病の病因と食事療法及び交換表の使い方が説明できる。	(復習)糖尿病の種類と食事療法をまとめる。 (予習)脂質異常症、痛風について教科書を読み、ポイント整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
8週 /	内分泌・代謝疾患 糖尿病の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答	糖尿病の病因と食事療法及び交換表の使い方が説明できる。	(復習)糖尿病の種類と食事療法をまとめる。 (予習)脂質異常症、痛風について教科書を読み、ポイント整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
9週 /	内分泌・代謝疾患 脂質異常症、痛風等の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答	脂質異常症と痛風の病因と食事療法の方針が説明できる。	(復習)脂質異常症、痛風の食事療法についてまとめる。 (予習)腎臓疾患について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
10週 /	腎臓疾患 慢性腎臓病等の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答 レポート	腎臓病の病因と食事療法の方針が説明できる。 レポート内容で評価する。	(復習)急性腎炎、慢性腎臓病の食事療法についてまとめる。 (予習)血液透析の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 実行力
11週 /	腎臓疾患 人工透析の食事療法と栄養素管理を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答 小テスト	腎臓病の交換表の使い方と血液透析食の食事方針が説明できる。 小テストで評価する。	(復習)血液透析の目的と食事内容についてまとめる、 (予習)肝臓病、膵臓病について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 実行力
12週 /	肝臓・胆のう・膵臓疾患 急性肝炎、肝硬変等の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答	肝臓病の病因と食事療法の方針が説明できる。	(復習)肝臓病の食事療法の方針をまとめる。 (予習)膵臓病の食事療法について教科書を読み、ポイントを整理する。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
13週 /	肝臓・胆のう・膵臓疾患 胆のう炎、胆石症、急性膵炎の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答	胆のう、膵臓病の病因と食事療法の方針が説明できる。	(復習)膵臓病等の食事療法の方針をまとめる。 (予習)貧血と白血病について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
14週 /	血液・免疫、関節疾患 血液、免疫の病因と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答	貧血の種類と病因及び食事療法の方針が説明できる。	(復習)貧血の定義と種類、白血病の食事内容をまとめる。 (予習)手術前後の食事方針について教科書を読み、ポイントを整理しておく。	180	主体性 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
15週 /	外科疾患・呼吸器疾患 手術後の栄養管理と食事療法を理解する。	講義(教科書・資料・ パワーポイント) 質疑応答 小テスト	手術後の栄養管理と提供する食事内容が説明できる。 小テストで評価する。	(復習)手術前・手術後の食事方針と内容をまとめる。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 実行力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力